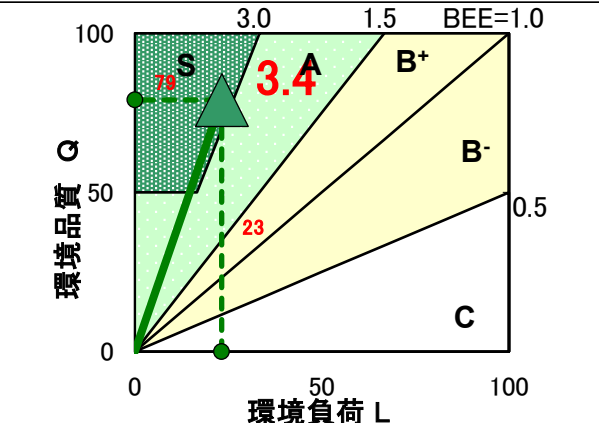
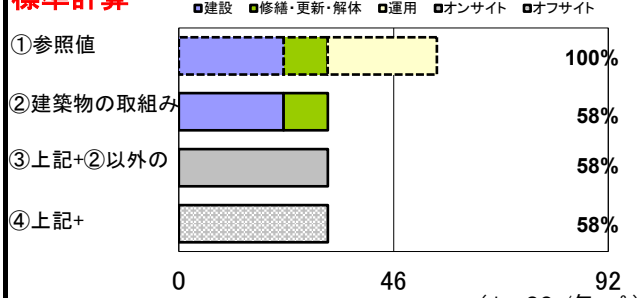
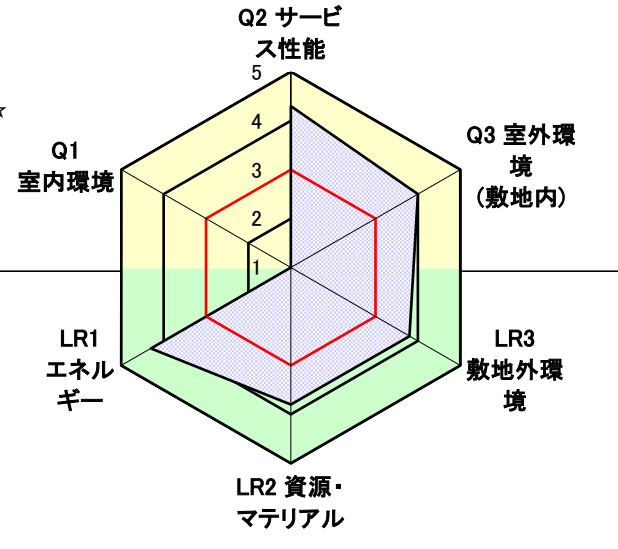
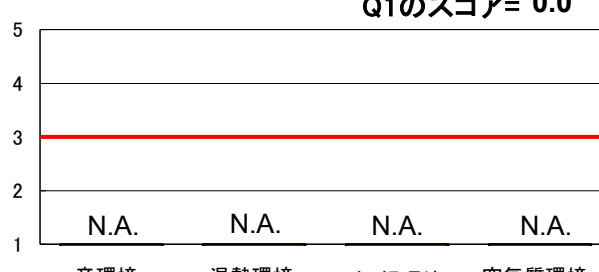
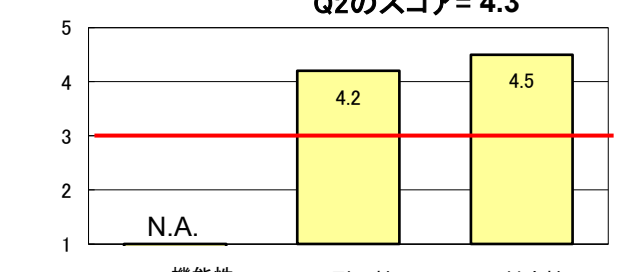
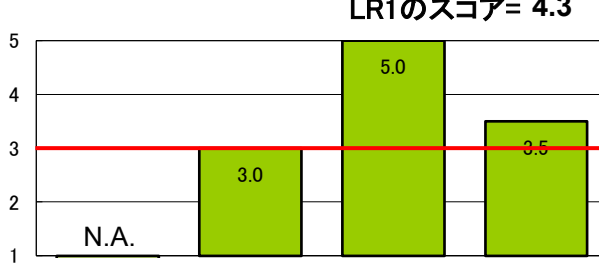
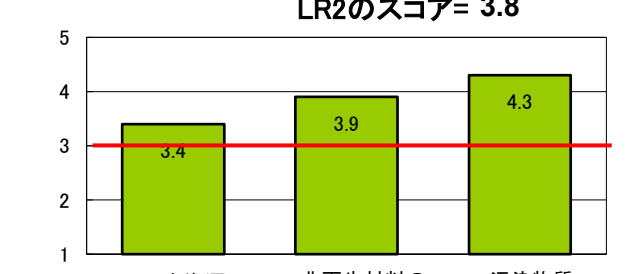
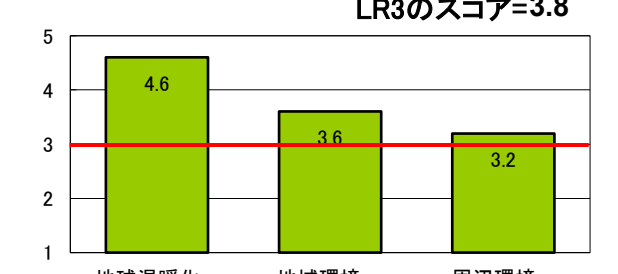


CASBEE[®]-建築(新築)

■ 評価結果 ■

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2021年SDGs対応版_追補版 ■使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2021SDGs(v2.3.5)

1-1 建物概要				1-2 外観											
建物名称	(仮称)LOGI'Q綾瀬新築工事			階数	地上5F										
建設地	神奈川県綾瀬市			構造	RC造										
用途地域	工業地域			平均居住人員	824 人										
地域区分	6地域			年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)										
建物用途	工場,			評価の段階	竣工段階評価										
竣工年	2025年5月 予定			評価の実施日	2025年1月23日										
敷地面積	47,096 m ²			作成者	(株)アステック一級建築士事務所 白川										
建築面積	24,564 m ²			確認日	2025年1月28日										
延床面積	117,197 m ²			確認者	大日本土木(株)一級建築士事務所 和井田										
2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)				2-2 ライフサイクルCO ₂ (温暖化影響チャート)											
BEE =3.4 S:★★★★★ A:★★★★ B:★★★ B-:★★ C:★ 				 30%:☆☆☆☆☆ 60%:☆☆☆☆ 80%:☆☆☆ 100%:☆☆ 100%超:★ 標準計算  このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物（参照値）と比べたライフサイクルCO2 排出量の目安で示したものです											
2-4 中項目の評価(バーチャート)				Q のスコア= 4.1											
Q 環境品質				Q1 室内環境											
Q1のスコア= 0.0				Q2 サービス性能											
								Q3 室外環境（敷地内）							
音環境 温熱環境 光・視環境 空気質環境				機能性 耐用性 対応性				Q3のスコア= 4.0							
生物環境 まちなみ 地域性・															
LR 環境負荷低減性				LR のスコア= 4.0											
LR1 エネルギー				LR2 資源・マテリアル				LR3 敷地外環境							
LR1のスコア= 4.3				LR2のスコア= 3.8				LR3のスコア=3.8							
															
建物外皮の 自然エネ 設備システ 効率的				水資源 非再生材料の 汚染物質				地球温暖化 地域環境 周辺環境							
3 設計上の配慮事項								その他							
総合															
四つの柱（情熱・貢献・信頼と約束・総合力）を軸に、周辺地域の人・テナント・荷主・働く人等関わる全ての人に温かい施設となることを目指し、時代のニーズを感じ取りながらより良い環境づくりへ真摯に取り組んだ設計とする。															
Q1 室内環境				Q2 サービス性能				Q3 室外環境（敷地内）							
				損傷制御設計、免震構造を採用し高い耐震性に加え、階高や空間、荷重にゆとりを持ち高い対応性を備えており、建物の長寿命化を推進している。				周辺のまちなみに調和する形状や色彩を採用し、敷地に適した植栽を選定し良好な景観を形成している。また、広場を確保し憩いの場として提供、地域の木材を採用するなど地域貢献に務めている。							
LR1 エネルギー				LR2 資源・マテリアル				LR3 敷地外環境							
ZEBに適合している。				躯体材料の削減、リサイクル材の採用、部材再利用の可能性向上へ取り組み、資源の保護を図っている。また、汚染物質含有材料の使用を回避している。				ライフサイクルCO2排出率を58%としている。また交通負荷の抑制のため導入路を複数設ける、ゴミの分別回収を推進している、光害の抑制に努めるなど敷地外環境へ配慮した設計としている。							

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと

■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

CASBEE-建築(新築)2021年SDGs対応版_追補版
(仮称)LOGI'Q綾瀬新築工事

■使用評価マニュアル CASBEE-建築(新築)2021年SDGs対応版_追補版
■評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2021SDGs(v2.3.5)

スコアシート		竣工段階								
配慮項目				環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体
Q 建築物の環境品質										4.1
Q1 室内環境							-		-	-
1 音環境						-	-	-	-	-
1.1 室内騒音レベル				—		-	-	-	-	
1.2 遮音						-	-	-	-	
		1	開口部遮音性能	—		-	-	-	-	
		2	界壁遮音性能	—		-	-	-	-	
		3	界床遮音性能(軽量衝撃源)	—		-	-	-	-	
		4	界床遮音性能(重量衝撃源)	—		-	-	-	-	
1.3 吸音				—		-	-	-	-	
2 温熱環境						-	-	-	-	-
2.1 室温制御						-	-	-	-	
		1	室温	—		-	-	-	-	
		2	外皮性能	—		-	-	-	-	
		3	ゾーン別制御性	—		-	-	-	-	
2.2 湿度制御				—		-	-	-	-	
2.3 空調方式				—		-	-	-	-	
3 光・視環境						-	-	-	-	
3.1 屋光利用						-	-	-	-	
		1	屋光率	—		-	-	-	-	
		2	方位別開口	—		-	-	-	-	
		3	屋光利用設備	—		-	-	-	-	
3.2 グレア対策						-	-	-	-	
		1	屋光制御	—		-	-	-	-	
3.3 照度				—		-	-	-	-	
3.4 照明制御				—		-	-	-	-	
4 空気質環境						-	-	-	-	-
4.1 発生源対策						-	-	-	-	
		1	化学汚染物質	—		-	-	-	-	
4.2 換気						-	-	-	-	
		1	換気量	—		-	-	-	-	
		2	自然換気性能	—		-	-	-	-	
		3	取り入れ外気への配慮	—		-	-	-	-	
4.3 運用管理						-	-	-	-	
		1	CO ₂ の監視	—		-	-	-	-	
		2	喫煙の制御	—		-	-	-	-	
Q2 サービス性能						—	0.43	-	-	4.3
1 機能性						-	-	-	-	-
1.1 機能性・使いやすさ						-	-	-	-	
		1	広さ・収納性	—		-	-	-	-	
		2	高度情報通信設備対応	—		-	-	-	-	
		3	バリアフリー計画	—		-	-	-	-	
1.2 心理性・快適性						-	-	-	-	
		1	広さ感・景観	—		-	-	-	-	
		2	リフレッシュスペース	—		-	-	-	-	
		3	内装計画	—		-	-	-	-	
1.3 維持管理						-	-	-	-	
		1	維持管理に配慮した設計	—		-	-	-	-	
		2	維持管理用機能の確保	—		-	-	-	-	
2 耐用性・信頼性						4.2	0.50	-	-	4.2
2.1 耐震・免震・制震・制振						5.0	0.50	-	-	
		1	耐震性(建物のこわれにくさ)	損傷制御設計が行われている		5.0	0.80	-	-	
		2	免震・制震・制振性能	免震装置が導入され建物全体の内部設備保護が図られている		5.0	0.20	-	-	
2.2 部品・部材の耐用年数						3.4	0.30	-	-	
		1	躯体材料の耐用年数	—		3.0	0.20	-	-	
		2	外壁仕上げ材の補修必要間隔	—		2.0	0.20	-	-	
		3	主要内装仕上げ材の更新必要間隔	床:タイルカーペット(20年)、壁:クロス貼(20年)		5.0	0.10	-	-	
		4	空調換気ダクトの更新必要間隔	—		3.0	0.10	-	-	
		5	空調・給排水配管の更新必要間隔	給水:VLP・VP・PE、汚水排水:VP、消火配管:SGP		5.0	0.20	-	-	
		6	主要設備機器の更新必要間隔	—		3.0	0.20	-	-	
2.4 信頼性						3.6	0.20	-	-	
		1	空調・換気設備	—		3.0	0.20	-	-	
		2	給排水・衛生設備	停電時に飲料用等に使えるよう受水槽に水道の蛇口を設置		4.0	0.20	-	-	
		3	電気設備	—		3.0	0.20	-	-	
		4	機械・配管支持方法	耐震クラスSとしている		5.0	0.20	-	-	
		5	通信・情報設備	—		3.0	0.20	-	-	

3	対応性・更新性			4.5	0.50	-	-	4.5
	3.1 空間のゆとり			5.0	0.30	-	-	
	1	階高のゆとり	階高を3.9m以上としている	5.0	0.60	-	-	
	2	空間の形状・自由さ	壁長さ比率<0.1	5.0	0.40	-	-	
	3.2 荷重のゆとり		床荷重4500N/㎡以上	5.0	0.30	-	-	
	3.3 設備の更新性			3.8	0.40	-	-	
	1	空調配管の更新性	天井スペースを確保し仕上材を傷めることなく修繕・更新可能	4.0	0.20	-	-	
	2	給排水管の更新性	PSを設け配管の埋込を無くし構造部材を傷めずに更新可能	4.0	0.20	-	-	
	3	電気配線の更新性	ケーブルラック等により仕上材を傷めることなく更新・修繕可能	5.0	0.10	-	-	
	4	通信配線の更新性	フリーアクセスフロア等により仕上材を傷めることなく更新・修繕可能	5.0	0.10	-	-	
	5	設備機器の更新性	—	3.0	0.20	-	-	
	6	バックアップスペースの確保	—	3.0	0.20	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)				—	0.57	-	-	4.0
1	生物環境の保全と創出		立地特性の把握、緑の量・質を確保し維持管理に努めている	4.0	0.30	-	-	4.0
2	まちなみ・景観への配慮		周辺のまちなみに調和するデザインを採用し良好な景観を形成	4.0	0.40	-	-	4.0
3	地域性・アメニティへの配慮			4.0	0.30	-	-	4.0
	3.1	地域性への配慮、快適性の向上	屋外テラスの設置、地域への空間提供、建築主の設計定例会参加	5.0	0.50	-	-	
	3.2	敷地内温熱環境の向上	—	3.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性					-	-	-	4.0
LR1 エネルギー				—	0.40	-	-	4.3
1	建物外皮の熱負荷抑制		—	-	-	-	-	-
2	自然エネルギー利用		—	3.0	0.13	-	-	3.0
3	設備システムの高効率化		モデル建物法による計算結果によりZEBに適合	5.0	0.63	-	-	5.0
	集合住宅以外の評価			5.0	1.00	-	-	
	集合住宅の評価			-	-	-	-	
4	効率的運用			3.5	0.25	-	-	3.5
	集合住宅以外の評価			3.5	1.00	-	-	
	4.1	モニタリング	—	3.0	0.50	-	-	
	4.2	運用管理体制	建物全体の消費エネルギー量の目標値が計画されている	4.0	0.50	-	-	
	集合住宅の評価			-	-	-	-	
	4.1	モニタリング	—	-	-	-	-	
	4.2	運用管理体制	—	-	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル				—	0.30	-	-	3.8
1	水資源保護			3.4	0.20	-	-	3.4
	1.1	節水	節水コマ、節水型機器を用いている	4.0	0.40	-	-	
	1.2 雨水利用・雑排水等の利用			3.0	0.60	-	-	
	1	雨水利用システム導入の有無	—	3.0	0.70	-	-	
	2	雑排水等利用システム導入の有無	—	3.0	0.30	-	-	
2	非再生性資源の使用量削減			3.9	0.60	-	-	3.9
	2.1	材料使用量の削減	プレストレスコンクリート、フェローデッキの使用、KTM・BRIM定着システムの採用	4.0	0.10	-	-	
	2.2	既存建築躯体等の継続使用	—	3.0	0.20	-	-	
	2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	—	3.0	0.20	-	-	
	2.4	躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	岩綿吸音板:事務室天井,タイルカーペット:事務室床,ビニル床タイル:EVホール	5.0	0.20	-	-	
	2.5	持続可能な森林から産出された木材	—	3.0	0.10	-	-	
	2.6	部材の再利用可能性向上への取り組み	躯体と仕上が容易に分別できるLGS、再生可能なユニット部材を採	5.0	0.20	-	-	
3	汚染物質含有材料の使用回避			4.3	0.20	-	-	4.3
	3.1	有害物質を含まない材料の使用	ガラス係シーリング、防水プライマー、塗膜防水の塗料、塗床材	5.0	0.30	-	-	
	3.2 フロン・ハロンの回避			4.0	0.70	-	-	
	1	消火剤	—	-	-	-	-	
	2	発泡剤(断熱材等)	ODP=0かつGWP=1以下の発泡剤を用いた断熱材等を使用	5.0	0.50	-	-	
	3	冷媒	—	3.0	0.50	-	-	
LR3 敷地外環境				—	0.30	-	-	3.8
1	地球温暖化への配慮		ライフサイクルCO2排出率=58%	4.6	0.33	-	-	4.6
2	地域環境への配慮			3.6	0.33	-	-	3.6
	2.1	大気汚染防止	燃焼機器を使用していない	5.0	0.25	-	-	
	2.2	温熱環境悪化の改善	—	3.0	0.50	-	-	
	2.3 地域インフラへの負荷抑制			3.7	0.25	-	-	
	1	雨水排水負荷低減	—	3.0	0.25	-	-	
	2	汚水処理負荷抑制	—	3.0	0.25	-	-	
	3	交通負荷抑制	駐輪場・駐車場を整備し導入路を複数設けている	5.0	0.25	-	-	
	4	廃棄物処理負荷抑制	分別回収の推進設備を備え、更に缶類の減容化対策を計画してい	4.0	0.25	-	-	
3	周辺環境への配慮			3.2	0.33	-	-	3.2
	3.1	騒音・振動・悪臭の防止		3.0	0.40	-	-	
	1	騒音	—	3.0	1.00	-	-	
	2	振動	—	-	-	-	-	
	3	悪臭	—	-	-	-	-	
	3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制			3.0	0.40	-	-	
	1	風害の抑制	—	3.0	0.70	-	-	
	2	砂塵の抑制	—	-	-	-	-	
	3	日照障害の抑制	—	3.0	0.30	-	-	
	3.3 光害の抑制			4.4	0.20	-	-	
	1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	チェックリスト、配慮事項の過半を満たしている	5.0	0.70	-	-	
	2	昼光の建物外壁による反射光(グレア)への対策	—	3.0	0.30	-	-	

CASBEE-建築(新築)2021年SDGs対応版_追補版

(仮称)LOGI'Q綾瀬新築工事

評価する取組み	合計	合計2	No.1	No.2	No.3	No.4	No.5	No.6	No.7	No.8	No.9	No.10	No.11	No.12	No.13
Q2 サービス性能															
1.2.3 内装計画	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-					
1.3.1 維持管理に配慮した設計	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
1.3.2 維持管理用機能の確保	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.4.1 空調・換気設備	-		○	-	-	-	-								
2.4.2 給排水・衛生設備	3.0	3.0	○	○	-	-	-	-	○						
2.4.3 電気設備	2.0	1.0	○	-	-	○	-	-							
2.4.5 通信・情報設備	2.0		-	-	○	-	○	-							
Q3 室外環境(敷地内)															
1 生物資源の保全と創出	10.0		2.0	-	3.0	-	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	-	-		
2 まちなみ・景観への配慮	4.0		2.0	1.0	-	-	1.0	-							
3.1 地域性への配慮、快適性の向上	5.0		-	1.0	1.0	-	1.0	1.0	1.0	-					
3.2 敷地内温熱環境の向上	8.0		-	1.0	1.0	3.0	-	-	-	1.0	2.0				
LR1 エネルギー															
2 自然エネルギー利用	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
LR2 資源・マテリアル															
1.2.2 雑排水等再利用システム導入の有無			-	-	-	-	-	-	-	-					
2.1 材料使用量の削減	3.0		-	-	3.0										
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用			-	-	-	-	-								
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	2.0		○	-	○	-									
3.1 有害物質を含まない材料の使用	4.0														
LR3 敷地外環境															
2.2 温熱環境悪化の改善	8.0		1.0	-	-	2.0	3.0	-	-	2.0	-	-			
2.3.3 交通負荷抑制	4.0		1.0	-	1.0	1.0	1.0	-							
2.3.4 廃棄物処理負荷抑制	4.0		1.0	1.0	1.0	-		-	1.0						
3.2.2 砂塵の抑制	-		-	-											
3.3.1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	4.0		2.0	2.0											

主な指標

Q1 室内環境

2.1.3 外皮性能

窓システムSC		窓の日射熱取得率(η)		
U値(W/m2K)	窓システム	屋根	外壁	床
住戸部分	窓システムU値	外皮UA値	η AC	η AH
昼光率	0.0%			
自然換気有効開口面積率	0.0%			

3.1.1 昼光率

4.2.2 自然換気性能

Q2 サービス性能

1.1.1 広さ・収納性

1.1.2 高度情報通信設備対応

1.2.1 広さ感・景観

1.2.2 リフレッシュスペース

2.2.1 躯体材料の耐用年数

2.2.2 外壁仕上げ材の補修必要間隔

2.2.3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔

2.2.6 主要設備機器の更新必要間隔

3.1.1 階高のゆとり

3.1.2 空間の形状・自由さ

3.2 荷重のゆとり

執務スペース	.0㎡ /人	病床	.0㎡ /床	シングル	.0㎡ ツイン	.0㎡
コンセント容量	0.0 VA/㎡					
天井高	0 m					
リフレッシュスペース	0.0%	レストスペース	0.0%			
想定耐用年数	0 年					
想定必要間隔	0 年					
想定必要間隔	20 年					
想定必要間隔	0 年					
階高	5.6 m					
壁長さ比率	4.0%					
床荷重	15000 N/m2					

Q3 室外環境(敷地内)

1 生物資源の保全と創出

3.2 敷地内温熱環境の向上

外構緑化指数	57%	建物緑化指数	0%				
空地率	47%	水平投影面積率	12%	地表面対策面積率	33%	舗装面積率	31%

LR1 エネルギー

1 建物外皮の熱負荷抑制

2 自然エネルギー利用

BPI/BPI _m	0.70	断熱等性能等級		等級4 相当			
自然エネルギー直接利用量	0 MJ/年㎡	採光を満たす教室数		0.0%	採光を満たす住戸数		0.0%
		通風を満たす教室数		0.0%	通風を満たす住戸数		0.0%
		太陽光	.0kW	太陽熱等	.0kW	蓄電池	.0kW
BEI/BEI _m	再エネ有	-	無	-	オフサイト再エネ有	-	-
一次エネ削減率	再エネ有		無				-

LR2 資源・マテリアル

1.2.1 雨水利用システム導入の有無

2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用

2.5 持続可能な森林から産出された木材

3.2.1 消火剤

3.2.2 発泡剤(断熱材等)

3.2.3 冷媒

雨水利用率	0.0%				
特定調達品目	ビニル床タイル	エコマーク商品	岩綿吸音板、タイ	廃材指定の特定品目等	-
使用比率	0.0%				
オゾン層破壊係数(ODP)	地球温暖化係数(GWP)				
オゾン層破壊係数(ODP)	0	地球温暖化係数(GWP)	1		
オゾン層破壊係数(ODP)	地球温暖化係数(GWP)				

LR3 敷地外環境

2.2 温熱環境悪化の改善

見付面積比		128% 隣棟間隔指標Rw 0.40																	
地表面対策面積率		51.0%		屋根面対策面積率		#DIV/0!		外壁面対策面積率		#DIV/0!									
見付面積Sb		8,164㎡		卓越風向と直交する最大敷地幅Ws		265.8 m		基準高さHb		23.9 m									
緑地		7,111㎡		水面		㎡		保水性対策面		㎡		高反射対策面		㎡		再帰性反射対策面		㎡	